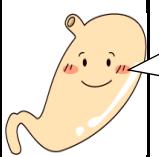
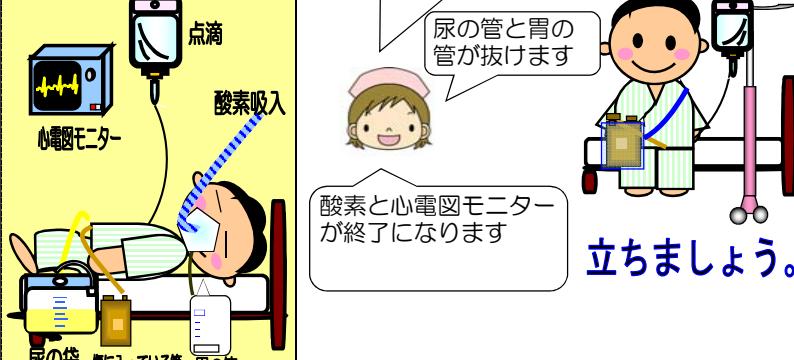


入院診療計画書(胃部分切除術を受ける患者様へ)

ID番号 病名(他に考える病名)	@PATIENTID	氏名 症状	@PATIENTNAME	様	@PATIENTWARD 病棟	@PATIENTROOM 号室	
担当医師 担当看護師	@USERNAME	印	担当薬剤師	その他の担当者名	@SYSDATE		
月日	術前日 (/)		手術日(/)	術翌日 (/)	術後2日~3日目 (/)	術後4日~6日目 (/)	術後6日目以降退院日
経過	検査データを確認しながら、手術へむけて準備を行います。		()時に手術室へ移動します。	術後は病室に帰ります。	水分開始になります。内服が開始になります。		食事が開始になります 4人部屋へ移動します 安全に日常生活の範囲を拡大していきましょう
目標	手術の必要性を理解できる		手術室へ行くまでの流れ <input type="checkbox"/> 麻酔科医師の指示の内服薬があれば、服用してください	痛みは我慢せずに、スタッフに知らせるようにしましょう。 痛みは我慢せずに、スタッフに知らせるようにしましょう。 スタッフと一緒に、少しでもリハビリを行いましょう。ベッドサイドに立てるようにしましょう。	痛みは我慢せずに、スタッフに知らせるようにしましょう。 痛みは我慢せずに、スタッフに知らせるようにしましょう。前日よりも、リハビリがすすめられるように頑張りましょう。	痛みは我慢せずに、スタッフに知らせるようにしましょう。前日よりも、リハビリがすすめられるように頑張りましょう。	退院後の生活について疑問点がある場合は、看護師に相談しましょう。
検査	レントゲン		口前あきの下着、病院のパジャマに着替えてください	手術からお部屋に戻ったら、3時間ごとに検温します	採血・レントゲン (レントゲンはお部屋でとります)	必要に応じて採血・レントゲン	
処置	 <p>入院や手術に関して不安があれば、遠慮なく相談してください</p> <p>手術前日の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> □おへその掃除をします □入浴(シャワー) □肩に名前を書きます(医師) □手術の準備品の確認 		口弾性ストッキングをはいてください(看護師が用意します) □義歯、めがね、時計、指輪などを外して下さい。 □貴重品は、ご家族の方へお渡しください □女性の方は、化粧やマニキュアを落としてください。 □髪の長い方は2つに結び、ヘアピンは外してください	 <p>点滴 酸素吸入 心電図モニター 尿の袋 ■に入っている管 胃の管</p> <p>初めて歩行する時は、看護師が付き添います。 術後早期に歩き始めた方が、回復も早くなります。</p> <p>尿の管と胃の管が抜けます</p> <p>酸素と心電図モニターが終了になります</p>	<p>立ちましょう。</p> <p>どんどん歩きましょう。</p> <p>水分を摂取する場合は、むせりや吐き気がないのを確認しながら飲んで下さい</p> <p>薬は正しく服用し、必ず指示通りに内服して下さい。緩下剤の内服については、便の回数や性状を見て調節して下さい。心配なときは医師に相談して下さい。</p>	<p>創部の管が抜けます</p> <p>痛み止めの管が抜けます</p>	<p>以下の症状があるときは受診日以外でも来院してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腹痛がひどい時。 ・排便、排ガスがなく、お腹の張りが続いている時。 ・嘔吐が続き、吐き気がひどい時。 ・黒い便が出た時。 ・高熱が出たり微熱が何日も続くような時。 <p>わからない点、疑問点がありましたら、何でも医師や看護師にご相談ください。</p> <p>外来受診について定期受診は必ず行なうようにしましょう。</p>
注射	ありません		□午後に手術を受ける方は、午前中に病棟で点滴をします				
内服	飲んでいるお薬は、全て看護師にお知らせ下さい。 病棟薬剤師もお薬を確認します。		朝6時まで水・茶・スポーツ飲料などの水は摂取可能です。 コーヒー・牛乳・野菜ジュースなどは飲まないで下さい。				次の受診日まで必要な分のお薬が処方されます
食事	 <p>水分は、1日1000mlを目安に補給してください。</p>						職場復帰、旅行などは医師に相談してください
清潔行動	活動、入浴に制限はありません		病棟を離れるときは、看護師にお知らせ下さい。	足の底背屈運動を行って下さい。 血栓予防になります	食事を摂取しない間も、口の中は清潔にしましょう	シャワー浴ができるまで、体拭きをお手伝いします。	入浴のときは… 熱いお湯は体の疲労を伴います。 長湯にならないようにしましょう。
説明	病棟での日常生活を説明します 手術の予定や経過について説明します		麻酔科医師と、手術室の看護師の訪問があります	<p>食事のとりかた 5分粥から開始します。 主食の量は、普通の量の半分から開始します。</p> <p>●姿勢 ・食べるときはベッドを起こすか、椅子に座りましょう。 ・食後30分~1時間は消化を助けるため安静が必要です。つかえた感じのあるときは、胃の通過を助けるため右側を下にして横になるか、座って様子をみましょう。</p> <p>●食べ方・速さ ・一口ずつ、ゆっくり、良く噛んで食べましょう。 ・お粥だけでいっぱいにならないよう、おかずから箸をつけましょう。</p>		<p>間食の工夫 1回の食事量が少ないため、空腹感があるとき(午前10時や午後3時頃)に間食するとよいでしょう。</p> <p>○間食してよいもの ・重湯のとき・・・ジュース(炭酸を含まないもの)、乳製品を少しづつ ・3~5分粥・・・プリン、ヨーグルト、卵豆腐、カステラ、ビスケット、バナナ、メロン ・7分粥から・・・果物全般、消化のよいもの ※消化が悪いもの(イカ、タコ、キノコ)</p>	<p>便秘になったときは… ・腹部で「の」の字を描くようにマッサージをして下さい。 ・水分を多めにとって下さい。 ・食物繊維の多い食品をとってください。(玄米・豆・芋類・果物・バナナなど) ・お腹のはりは食事の進みにくい原因になります。湯たんぽなどでお腹を温め、腸の動きをよくしましょう。 ・歩行訓練は腸の動きをよくしますので、体調の良い時間をみて廊下歩行に努めましょう。</p> <p>下痢になったときは… ・腹部の保温(腹巻き使用) ・脱水になりやすいので、水分を補給しましょう。 ・温かい消化の良い食べ物を摂取しましょう。(お粥・煮込みうどん・葛湯・ヨーグルトなど) ・以前より下痢を起こしやすかった食べ物は、術後も控えましょう。 ・下痢止めの薬の乱用は慎むよ</p>
胃の手術を受けられる方へ	 <p>スーフル呼吸訓練を行って下さい</p> <p>胃のはたらき 胃は食物を一時ためる臓器です。食物と胃液を粥状にし、十二指腸へ送り出すポンプの役割を担っています。 しかし、手術で胃が小さく、または胃がなくなると、腸や食道に負担がかかりやすくなります。また消化液の分泌も少なくなるので、栄養の吸収も弱まってしまいます。 ここでは、手術後の食事摂取のポイント</p> <p>必ず禁煙して下さい。</p>						口次回予約票が渡されます。 ロリットバードを外します。 口栄養指導があります

福島県立医科大学附属病院 パス承認番号 (No.221-1, No. 221-2) 承認月日 (平成27年10月27日)

- 注1) 病名は現時点で考えられるものであり、今後の検査等を進めていくにしたがって変わり得るものです。
- 注2) 入院期間については現時点で予想されるものです。
- 注3) 特別な栄養管理の必要性については、電子カルテ等様式の変更が直ちにできない場合、食事の欄に記載してもよい

上記内容について説明を受け同意いたしました。

署名 :

統柄 :

特別な栄養管理の必要性

有

・

無